# 山形教区報

立教188年
10月号
第170号

発　行　天理教山形教務支庁　〒994-0027 天童市桜町11番1号
TEL 023-656-8420　FAX 023-656-8425
編　集　広報部　E-mail y_kohobu@yahoo.co.jp


## 支部活動への三つの思い

米沢支部長　鈴木　真

本年4月に米沢支部長を拝命致しました。前支部長の阿部芳晴先生が長年にわたりお務め下さり、まだまだ続けて頂けるものと思っていましたので、心の準備も何もないまま、支部長就任をお引き受けすることになりました。今は唯々、これまで先輩先生方がお付け下さった道を、精一杯辿らせて頂きたいと思っています。

支部活動を活発にするメリットは、一つの教会だけでは出来ないことでも、多くの教会や教友が力を合わせることで実現可能となり、そうした活動そのものが地域へのにおいがけとなると思っています。

例えば、当支部が長く継続してきた支部活動の一つとして、米沢市にある特別養護老人ホーム「花の里」でのひのきしんがあります。車椅子の洗浄や窓ガラス拭きなどのひのきしんに取り組んできました。手の届きにくい作業に取り組むことで、施設職員の方々や利用者の皆さんに大変喜んで頂いています。そして、こうしたことの積み重ねが、天理教の信仰を正しく理解してもらえることに繋がっていくと感じています。コロナ禍以降、現在は活動休止を余儀なくされていますが、環境が整えば、今後再開していきたいと考えています。

一方、支部合併などの再編への動きをどのように判断するのかということも、先送りに出来ない重要な問題だと考えています。他支部と同様、米沢支部も教会関係者の高齢化や後継者問題などで、支部活動の維持・継続には様々な課題を抱えています。こうした課題解決の方策として支部再編は選択肢の一つではありますが、支部の管轄する範囲が一気に広がってしまうことによる負担増など、新たな課題を生み出すことにもなりかねない非常にデリケートな問題でもありますので、慎重に対処していかなければならないと感じています。

そして、支部活動を支える要素として、人材を最大限に活用するということは大切なことです。これから様々な活動の先頭に立ってくれるであろう若手の教会長さん方のやる気と、これまで支部を支えて下さった先生方の経験をうまく結び合わせ、風通しのよい、一人ひとりの顔が見える支部を目標に、努力を重ねていきたいと思います。幸いなことに当支部には、教区や支部で様々な御用に当たられた先生方が大勢いらっしゃいますので、ご指導、ご助言を頂き、更には支部内の全ての方々のお力添えを頂きながら、その任を全う出来るよう努めさせて頂きたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 布教部 ひのきしんスクール開催

教区布教部（髙橋惣一部長）主催の「ひのきしんスクール」を9月21日、教務支庁を会場に開催し、各地から24名の方々がご参加下さいました。

2年ぶりの開催となった今回は、「カウンセリング傾聴をおたすけに活かす」というテーマのもと、辻真一先生（甲京分教会長、ひのきしんスクール運営委員）、根生一治先生（比企分教会長、公認心理士、埼玉県富家病院勤務）にお越頂き、傾聴に関わる知識や技能の習得に努めました。

辻 先生

根生 先生

当日は、開講挨拶に続き、辻先生より「ひのきしんとは」というお話がありました。

続いて、根生先生より演習Ⅰ「傾聴の基礎～人の話を聴くコツ」を、プロジェクターとテキストを活用し、分かり易く説明して頂きました。演習では二人一組となり、一方の人が「石の状態」になり、無反応で相手の話を聴くことから始まり、次第に相槌や確認の言葉を交えていく中で、次第に話を聴いてもらう側の気持ちが理解出来ていくという、貴重な体験でありながらも、時折笑いが起こるような和やかな雰囲気で演習が行われました。

昼食の後、辻先生より演習Ⅱ「おたすけの現場から」をお聞きしました。教会生活の中で実際に経験された住み込み人の方々との様々な苦労やふしを通して、先生が辿り着かれた「徳を積んでもらうこと」を念頭に置いたおたすけの話や、更には、障害を持つ先生のお子さんとの関わりを通して様々な気付きを得たり、ふしを喜びに換えていくという感動的な話を、時折ユーモアを交えて明るくお話し頂きました。

その後の質疑応答の時間では、傾聴に対するより踏み込んだ質問、あるいは、ひきこもりや不登校の方へのおたすけについての質問に、先生方から分かり易く丁寧なアドバイスを頂くなど、終始和やかな雰囲気の中で、内容の濃い充実した研修を行うことが出来ました。

報告者　布教部ひのきしんスクール担当　藤野徹

傾聴という言葉は、カウンセリングの場面などにおいては、比較的よく耳にする言葉で、その定義については、厚生労働省ＨＰには次のように紹介されている。

＊

「積極的傾聴」は、米国の心理学者でカウンセリングの大家であるカール・ロジャーズによって提唱されました。ロジャーズは、自らがカウンセリングを行った多くの事例を分析し、カウンセリングが有効であった事例に共通していた、聴く側の3要素として「共感的理解」、「無条件の肯定的関心」、「自己一致」をあげ、これらの人間尊重の態度に基づくカウンセリングを提唱しました。

1. 共感的理解
相手の話を、相手の立場に立って、相手の気持ちに共感しながら理解しようとする。

2. 無条件の肯定的関心
相手の話を善悪の評価、好き嫌いの評価を入れずに聴く。相手の話を否定せず、なぜそのように考えるようになったのか、その背景に肯定的な関心を持って聴く。そのことによって、話し手は安心して話ができる。

3. 自己一致
聴き手が相手に対しても、自分に対しても真摯な態度で、話が分かりにくい時は分かりにくいことを伝え、真意を確認する。分からないことをそのままにしておくことは自己一致に反する。

具体的に言えば、「共感的理解」に基づく傾聴とは、聴き手が相手の話を聴くときに、相手の立場になって相手の気持ちに共感しながら聴くことです。「無条件の肯定的関心」を持った傾聴とは、相手の話の内容がたとえ反社会的な内容であっても、初めから否定することなく、なぜそのようなことを考えるようになったのか関心を持って聴くことです。「自己一致」に基づく傾聴とは、聴く側も自分の気持ちを大切にし、もし相手の話の内容にわからないところがあれば、そのままにせず聴きなおして内容を確かめ、相手に対しても自分に対しても真摯な態度で聴くことです。

# 立教188年 全教一斉にをいがけデー

今年の「全教一斉にをいがけデー」が9月28日から30日まで、全国各地で開催された。

例年9月は「においがけ強調の月」として、教会長はもとより多くのようぼく・信者が布教活動に参加出来るように取り組みが進められている。そうした中、昨年と本年は9月を「全教会布教推進月間」と定め、「一手一つに世界たすけの歩みを進めよう」のスローガンを掲げ、現状よりも更に一歩前に進んだ布教実働が求められてきた。

年祭活動も百日余りを残すところとなったこの旬、教区管内でも支部や教会毎に一手一つに布教活動が展開され、三年千日の仕上げに向かって、心明るく勇んだ姿を親神様、教祖にご覧頂いた。

■中央支部では28日、6名の教会長らが山形市内沼木地区にて約1時間、戸別訪問やリーフレット配りなどを行いました。

30日は、教務支庁周辺にて布教活動を行いました。爽やかな秋晴れの下、10名の参加者は参拝の後、教務支庁を出発。幟旗を先頭に、国道13号線に沿って、神名流しを行いました。天童市消防本部前に到着した後は、3名の教会長が路傍講演を行い、「かしものかりもの」などの教えの角目や、自身の信仰体験などを道行く人々に語りかけました。

その後、再び神名流しを行いながら教務支庁に戻り、今年の全教会布教推進月間をふり返り、改めて布教活動に邁進するよう誓い合いました。

報告者　藤原隆宏・道友社支部社友

■米沢支部は、28日は米沢市の秋祭り会場脇の伝国の杜置賜文化ホール前での神名流しと、教会長が交代で路傍講演を行いました。同時にその傍らでは、教会長以外の参加者が、少年会員を含め秋祭りの来場者にリーフレット配りを行いました。29日、30日は、米沢市内で個別訪問を行いました。3日間天候に恵まれ、いそいそとつとめさせて頂きました。

報告者　諸橋正史・支部社友

■鶴岡田川支部は、28日は羽前分教会に集合し、教会長4名、ようぼく4名、少年会員3名が、お願いづとめを勤めた後、教会周辺で神名流しを行いました。道中は道行く人にリーフレットを手渡し、ポスティングをしながら歩きました。

29日はJR鶴岡駅前広場でよろづよ八首を奉唱した後、

路傍講演を行いました。路上を行き交う人々にリーフレットや青年会のポケットティッシュを配りました。参加者は教会長4名、ようぼく6名でした。

30日は、鶴岡分教会に教会長5名、ようぼく6名が集合。お願いづとめを勤めた後、県道に沿って神名流しを行い、その後戸別訪問に回りました。リーフレットを手渡す際、相手の方から「がんばって下さい」と励ましの言葉をかけられる場面もあり、大いに勇ませて頂きました。

報告者　鈴木伸次・支部社友

■酒田飽海支部は、28日午前10時、JR酒田駅前にある交流拠点施設「ミライニ」に、教会長3名のほか計6名の参加者が集合し、駅前駐車場にて路傍講演を行いました。

参加者一人ひとりが「身体はかりもの」「八つのほこり」など、教理の言葉が書かれたプラカードを掲げ、弁士は耳を傾ける人に少しでも分かりやすく伝わるようにと、それぞれが工夫して話をしました。プラカードの裏面には、表側の言葉の内容に即した文章が書かれてあり、路傍講演を行うのが初めてという参加者も、プラカードに書かれた文章を読み上げ、堂々と弁士を務めました。

29日、30日は教会毎に個別訪問、リーフレット配布などに努めました。

報告者　牧野啓道・酒田市分教会長

■中央西支部では、29日教会長らがJR寒河江駅前に集合。始めに藤野支部長が路傍講演に立ち、駅前を行き交う人々へ信仰の有り難さを語りかけました。その後、参加者全員でよろづよ八首を奉唱し、おぢばを遥拝。一旦その場を解散し、参加者達は市内各所に分かれ、戸別訪問などのにをいがけに歩かせて頂きました。

当日は時折雨の降る悪天候でしたが、それぞれが熱心に活動に当たり、11時半に再び集合し、振り返りのための反省会を行い、年祭活動を最後までしっかりつとめ切らせて頂けるよう、引き続き活発に布教活動を行うことを誓い合いました。

参加者は教会長ら5名でした。

報告者　藤野徹・支部社友

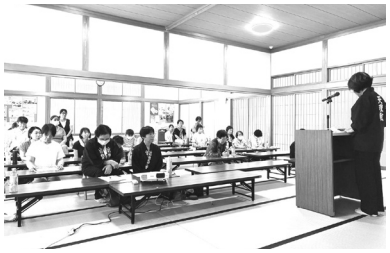
この他、置賜支部でも支部内各所でにおいがけ活動を行った。

# 婦人会　委員部長の集い

教区婦人会（中森ゆみへ主任）では9月1日、教務支庁にて「委員部長のつどい」を開催し、26名が参加しました。

座りづとめ、よろづよ八首をつとめた後、昨年度の会務報告が行われ、続いて中森主任が挨拶に立ちました。引き続き、「みちのだい育み塾」「女子青年活動」「災害救援ひのきしん隊」の各担当者が活動報告を行いました。その後、5班に分かれて、教祖百四十年祭へ向けてのねりあいを行い、ひながたを心に治め、教祖にご安心頂き、お喜び頂けるよう、勇んで通らせて頂くことを誓い合いました。

昼食をはさんで午後からは、同日開催の「道友社おはなし会」に参加しました。



また、これに先立つ7月10日には「みちのだい育み塾勉強会」を開催。19名が参加し、対象者が参加しやすいように、開催方法や内容などについて意見交換を行いました。

報告者　鈴木さよ子・米沢支部主任

# 中央支部・中央西支部婦人会「育み塾」

9月27日、中央支部婦人会（藤原昭子主任）、中央西支部婦人会（古城輝都子主任）合同による「みちのだい育み塾」が教務支庁において開催され、両支部より婦人会員20名の外、少年会員ら計23名が参加した。

当日は、全員で座りづとめを勤めた後、年代別に4つのグループに分かれアイスブレイクトークを行い、振ったサイコロの目毎に設けられた「マイブームは何ですか」「名前の由来を教えてください」などのテーマに沿って、自己紹介を行った。その後のティータイムでは、用意されたケーキとお茶を楽しみながら歓談した。

後半にはトークタイムが設けられ、一人ひとりに配られた別内容のにおいがけチラシの中に記されたお道の教えを、日々の暮らしの中にどのように活かしていけるかを語り合った。

参加者からは、「今回初めてお道の行事に参加した。初対面の方とも直ぐに打ち解けて、いろんな話が出来て、とても楽しかった」といった声が聞かれた。

# 道友社　おはなし会＆ブックフェア

教区道友社社友会（藤原隆宏代表社友）では、9月1日、教務支庁を会場に「道友社おはなし会」を開催。各地より教会長夫妻を始め大勢のようぼく・信者らが参加した。

この会は、教祖百四十年祭三年千日の仕上げの年に、管内教友の年祭活動の後押しとなるような講演会をと企画されたもので、講師には、この春道友社より『信心素描　ーおやさまに導かれた女性』を上梓した伊橋幸江氏（天理教校本科研究課程講師）を迎えた。

氏は「おやさまのお心をもとめて」をテーマに、『信心素描』に取り上げた先人達の事蹟に触れながら、教祖がどのように先人を導かれ、先人達は教祖のお言葉、教えをどのように身に表し、ひながたを求めて生涯を通られたのかを、典拠を示しながら詳しく話された。

また、会場には、『天理時報』に特別企画として9回にわたり連載された「信心の扉　ー教祖に導かれた女性」の紙面が掲示され、伊橋氏の発表論文が掲載された『天理教校論叢』や『天理教学研究』といった研究誌が展示されるなど、同氏のこれまでの研究活動を紹介するコーナーが設けられた。

一方、庁舎玄関ホールでは、道友社発行の書籍を出張販売する「道友社ブックフェア」も同時開催された。

伊橋氏お薦めの本や売上げランク上位の本など、道友社から取り寄せた10数点の書籍が揃えられ、「読書会」や「すきっとサポーター」などのサービスを説明するポスターが貼り出される中、テーブルに並べられた書籍を興味深そうに手に取り、内容を確かめながら買い求める姿が見られた。

参加者からは、「これまで教理を研究している方の話を聞く機会がなく、楽しみにしていた。目から鱗が落ちるような話をたくさん聞けて、大変有意義だった」「地元には道友社の本を扱う書店がないので、このような企画はとても有り難い」などの声が聞かれた。

# 教務支庁ひのきしん

9月20日、「教務支庁ひのきしん」が実施され、管内各地より19名が参加しました。

様々な教区・支部活動に使用している教務支庁舎への感謝、また教祖百四十年祭へ向かう理作り、伏せ込みの場として2年ぶりに開催しました。

翌日に開催される「ひのきしんスクール」の受講者の方々にも喜んで頂けるように、ブロワーを用いて障子の埃払い、掃除機かけ、畳と窓拭きなど、神殿と研修室の大掃除を行いました。他に男性は屋外からサッシ窓、網戸の水洗い、女性は座布団カバーや寝具類の洗濯を行いました。更には各所に収納された資料や本などを片付けるひのきしんを行いました。

昼食には、婦人会員手作りの芋煮とおにぎりが用意され、秋の味覚を楽しみ、終日ひのきしんに汗を流しました。

報告者　佐々幸雄主事

# 学生のつどい　まなびば

教区学生担当委員会（松本真委員長　以下、学担）では、9月6日から7日まで、教務支庁を会場に「学生のつどい　まなびば」を開催。プログラムを通して、互いの親睦を深めながら、教祖の教えに触れ、日々の生活の喜びに気付ける心の持ち方を学びました。

参加者4名の外、計7名が自己紹介を兼ねて「セブンス」や「ライフライン」といったゲームを楽しみ、松本委員長のお話を聞くなどして、お道の信仰の素晴らしさを感じ取ってもらえたと思います。

参加者からは、「何気ない一言で救われることがあることを実感でき、これからは常に周りの人に心を配ろうと思った」「全体を通しての温かい雰囲気がよかった」などの感想が寄せられました。

報告者　佐藤善太郎・学担まなびば担当者

## 教報

**任命**

羽陽分教会（日本橋大・米沢支部）

**お許し**　立教188年9月25日

**新任教会長**　水嶋清子

**就任奉告祭**　10月13日

## 教務支庁日誌

**8月**

6日　中央支部例会　同支部婦人会例会
7日　災救隊例会
10日　少年会のつどい
24日　女子青年例会
30日～31日　災救隊教区訓練

**9月**

1日　委員部長のつどい　おはなし会
2日　主事会　教区例会　学担例会
6日　中央支部例会
　　学生のつどいまなびば　～7日
20日　教務支庁ひのきしん
21日　ひのきしんスクール
27日　中央・中央西支部婦人会合同「みちのだい育み塾」
30日　中央支部・にをいがけデー